

With コロナ時代の「ニューノーマル」

令和2年度に猛威をふるった新型コロナウイルスの勢いは、令和3年度も変わりありませんでした。

このような予測困難な時代においても、飛騨地区の先生方に多大なるお力添えを頂き、8月3日に実施された「飛騨大会準備会」は、**図1**のように、県の研究部がオンラインでの参加、密を防ぐために、飛騨地区の先生方には、国府中学校・松倉中学校・日枝中学校・東山中学校の四会場に分かれ、研究の共通理解や、指導案検討・実践提案のプレゼン検討などを実施して頂きました。

さらに、九月に実施予定だった公開授業では、何度も何度も、日時調整を試みて下さったと伺いました。

10月22日、飛騨大会当日は、初のオンライン開催ということで、これまでにない県大会をご提供頂きました。

真摯にご準備くださっていた飛騨地区の先生方に、この場をお借りして、敬意を表します。

昨年度は、新型コロナの影響で中止となった「NHK杯全国中学校放送コンテスト」も、情報部が中心となり、本年度は、**図3**のように、オンラインによる審査会を実施し、生徒の活躍できる場を提供することができました。

with コロナ時代においても、このような場を設定し、研究を止めずにしてくださった全ての方に感謝申し上げます。

飛騨大会については、当日、アンケートフォームによる感想を頂きました。その一部を、次のページに乗せさせていただきます。

今後このご意見をもとに、

「授業をどのように公開できるようにするか」という課題の解決と、

「移動なしで研究会に参加できる」

オンラインならではのメリットを生かし、対面での実施のよさと、オンライン開催のよさを併せもった、よりよい県大会の実施の形について、今後、中国研は考えてまいります。



図1：8月3日 飛騨大会準備会の様子



図2：10月22日 飛騨大会当日の様子

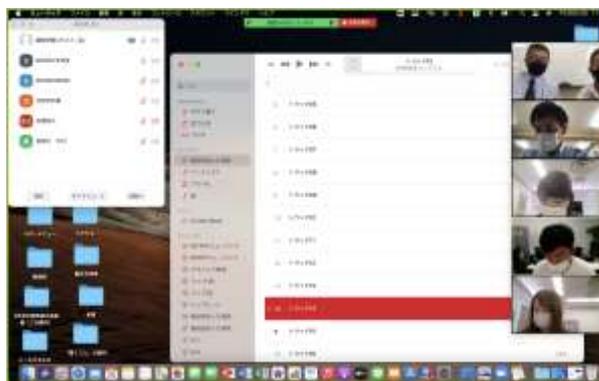


図3：NHK杯全国中学校放送コンテスト審査会の様子

アンケートフォームでお寄せいただいた、飛騨大会の感想（抜粋）

側面	感想・ご意見
運営面	<p>○コロナ禍においてもオンラインを活用して開催できたことがまず良かった。今後、こういった形での会が行えるようになれば、遠方の会への参加や授業の参観も可能となり、出張の負担を減らしていける。</p> <p>○コロナ禍の中でも、研究実践を進めようとする先生方のご努力があり、飛騨の実践を、遠く西濃の地から拝見できたことに感謝をしております。</p> <p>○手続き等が非常にスムーズにできました。指導案をホームページで共有することにより、本校の国語科で中国研に所属していない職員も、いつでも見ることが可能でした。飛騨の先生方の尽力された実践が広がっています。ありがとうございました。</p> <p>○移動する必要がなく、十分な発表を聞くことができた。通信障害が起こることも一切なく、画面もスムーズに映っていたため、分かりやすかった。</p> <p>○アンケートフォームによる事前申込みがとてもやりやすかったです。これまで通りのメールでの申込みよりも楽にできました。</p> <p>○大会参加申込や指導案など、煩雑になりがちな部分が一本化されありがたかった。「zoom」による運営についても、事前に綿密な準備がされていた。</p> <p>●対面だと、気軽な雑談程度の交流で考えを伝え合うことができる。オンラインだとかつちりとした意見のみを話さなければならぬような雰囲気があるのが残念。</p> <p>●発表の中で使われたプレゼンや、当日のレジュメの資料もあるとよかった。</p> <p>●やはり授業を参観したかった。映像配信などがあるとよかった。</p> <p>●マイクとカメラをオフにしての参加だったので、発表者側の先生方がやりにくいのではないかと思った。</p>
研究面	<p>○小学校のうちにもどのような力をつけておくべきかを考えながら参加させて頂いた。中学校の発表ではあるけれど、ぜひ小学校の先生方にも聞いて頂きたい内容だった。欲を言えば子供がどのような発言をしたのかが知りたかった。とにもかくにも、限られた条件の中での開催、本当にお疲れ様でした。</p> <p>○自分が実践していない単元の実践発表でしたが、とても参考になりました。自分もやってみようと思います。今回の実践発表で学んだことが使えそうだなと感じました。今後、自己の高まりを実感できるような授業を仕組んでいきたいと思います。</p> <p>○話すこと聞くこと部会に参加しました。予定していた実践ではないとのことでしたが、実践発表と、指導者の先生のご指導が大変参考になりました。特に話すテーマを「身近で多様な意見が出る」、「生徒が自分ごととして捉えられる」という視点で考えて設定していくということは、明日からすぐ活用していきたいと思います。</p> <p>○書くこと部会のお話で聞かせて頂いたように、生徒が、ただなんとなく書くだけでは、やはり力が付きづらく、生徒の意欲も出ないことが分かりました。そのために、場の設定をうまくすることで、意欲的に取り組むことができることも感じました。</p> <p>さらに、場の設定を行う上で、付けるべき力を明確にし、それにあった設定をしないといけないことが大切だと思いました。</p> <p>○日枝中の川原先生が作成された指導案は、すばらしい内容でした。自分も「読むこと」の考えの形成について少しだけですが研究してきたので、この指導案の質の高さ、川原先生をはじめとするみなさんの努力の程が理解できます。</p> <p>○「語彙力を付ける」という言葉は簡単でも、具体を示すことは難しいことだと思います。それをテーマにして、実際に実践をされた言語文化部会に敬意を表します。</p> <p>●中国研は、岐阜県全体の国語科の向上を目指すものであると考えた場合、「どこの学校でも」というのは大切な部分だと思う。こうなると次は生徒や授業者を選ばず、なおかつ「働き方改革」に合致している研究にしていきたい。手間と効果のコストパフォーマンスを考慮しながら研究を進めていけると良いと思う。</p> <p>●県の構想を受け、飛騨地区が歩みを進められたことがよく分かった。参加した領域の発表しか聞けなかったのは残念。今後授業をどのように見ていただくのか考えていけるとよい。</p>

2. 2024年実施の「美濃大会」に向けての動き

①今後の大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	2021	→	2024	→	2027
東濃	間3年	可茂	間2年	錮(峠)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃

※このサイクルで問題ないか？

★地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。(研究大会運営に関する規程より)

②今後の動き

① 引き継ぎの仕方について

コロナ禍においても飛騨大会を初のオンライン開催という形で実施して頂いたノウハウを、確実に次回大会の実行委員に引き継ぎができるように、日枝中学校 熊崎先生には、研究副総括として、次回大会への引き継ぎをお願いしてはどうか？同時に、飛騨大会実行委員長の北陵中 中西史子校長先生にも、引き継ぎの際にサポートをして頂いてはどうか？

② 次回（美濃大会）の実行委員長・実行委員について

石橋会長とご相談差し上げます。

③ 飛騨大会を美濃大会につなげるために その1（2月の総会で、実践発表者の方の発表）

今回の2月2日の研究部総会では、飛騨大会の実践発表者に、各部会で、実践発表をして頂く。飛騨大会当日に都合で見ることができなかつた方もいらっしゃることも想定されることと、来年度以降、この追実践を行う際の留意点や、オンラインでこういった県大会を行う際に、どのような発表を目指していくのかのご意見を頂くような研究部総会とする。

飛騨大会を美濃大会につなげるためにその2（令和4年度 夏季ゼミにおける実践発表者の方の発表）

上記の2月総会で頂いた意見を元にして、来年度の夏季ゼミをオンラインで実施し、今回の飛騨大会の実践発表者に、今回のプレゼンを、次の美濃大会の引き継ぎをかねて、披露して頂く会とする。

以下は、今後3年間の夏季ゼミの見通しである。

- 令和4年度 → 飛騨地区大会の発表を見る会
(県研究総括・飛騨大会実行委員・県領域部長・飛騨地区実践発表)
- 令和5年度 → 美濃大会に向けての準備会（美濃地区での研究の共通理解など）
- 令和6年度 → 美濃大会に向けての指導案検討・実践発表検討

※令和4年度は県中国研が主催で、令和5、6年度は、美濃地区が主催とし、美濃大会の準備会を中国研夏季ゼミナールと兼ねる。

令和4年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
4月下旬	第1回 中国研役員会	※対面・オンライン開催は未定
5月	第1回 代議員会および研究部総会 【内容】 ①中国研会長あいさつ（中国研会長） ②本年度の活動計画提案（主務者） ③令和3年度会計報告及び令和4年度予算案（会計） ④令和6年度実施の美濃大会について （美濃大会実行委員） ⑤機関紙「ぎふこくご」について（広報） ⑥「ぎふこくご賞」論文について（研究副総括） ⑦令和3年度の研究について（研究総括） ⑧各領域の研究構想（各領域部長） ⑨各郡市の代議員について（総務）	※対面・オンライン開催は未定
各部会で部長が集約（随時）	指導等の授業資料を 情報部にメールで送付	メールアドレス beans@tcp-ip.or.jp
8月 統一研究日	「中国研夏季ゼミナール」（オンライン開催） 内容 「令和3年度実施 飛騨大会から学ぶ会」 【全体会】 ①会長あいさつ ②夏季ゼミナール開催の趣旨の説明 ③県中国研研究総括より、基調提案 ④飛騨大会実行委員より飛騨地区の取組についての紹介 ⑤飛騨大会実行委員長あいさつ 【分科会】 ①県領域部長研究構想の説明 ②飛騨地区の実践発表 ③意見交流	※オンライン開催
12月下旬	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆活動（主務者・研究総括・研究部長・各部会の方が実践報告）	
1月中旬 役員会	第2回役員会 ☆令和4年度の活動の方向の確認 ☆ぎふこくご賞の審査	※対面・オンライン開催は未定
2月	第2回 代議員会（第1部） ①令和4年度の活動報告 ②ぎふこくご賞の表彰および、受賞者の方の発表 ③令和4年度の代議員引継ぎについて ④各担当より、令和4年度の活動の振り返りと令和5年度の活動の方向の提案 ⑤ご指導（岐阜教育事務所） 「ぎふこくご」の配布による、研究報告 第2回 研究部総会（第2部） ① 研究総括より （来年度の研究部員継続のお願いと確認） ②各部会ごとに美濃大会に向けての準備	※対面・オンライン開催は未定

飛騨大会のまとめ —美濃大会に向けて—

飛騨大会実行委員 熊崎

1 飛騨大会の成果（○）と課題（▲）

主張点①「各校の生徒に育成すべき資質・能力の位置づけ」に関わって

○学校ごとに決め出している「育成すべき資質・能力」を国語科の単元構想図にも明記し、授業者が意識して授業を行うことをねらった。「育むべき資質・能力」を明記したことで、授業者が常に意識することができ、これまでのように国語の力のみでなく、主体的に関わったり創造したりする力の育成にもつながった。

主張点②「新教科書による授業の具体」に関わって

■学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発

○総合的な学習の時間と関連づけた言語活動を設定したり、単元の導入で生徒が「やってみたい」「課題を解決したい」と思える工夫をしたりすることで、学ぶ必然性を感じさせることができた。

■「主体的・対話的で深い学び」となるための指導の工夫

○課題追究場面で、一律な学習形態にするのではなく、生徒一人ひとりが自身の課題を解決するために追究方法を選択し、対話を通して課題解決ができることを大事にした。追究場面で「個別最適な学び」を重視し課題方法を選択できるようにしたことは、生徒の主体的な学びにつながった。

主張点③「3つの柱で整理された評価の在り方」に関わって

○生徒自身が自己の高まりを実感することができるよう、毎時間の評価を生徒自身が見られるよう単元を通じたシートを活用したり、単元はじめの自分の考えと比較したりする活動を位置付けた。また、新しく三つの窓で整理された評価基準を単元構想図および本時の指導案の中に示した。特に、本時の指導案には、何によって評価するのかを具体的に示した。

▲評価の場や評価方法についての検討が不十分だった。特に、「学びに向かう力」をいつ、どのような方法で評価すればよいのかなど課題は多い。

2 美濃大会に向けて

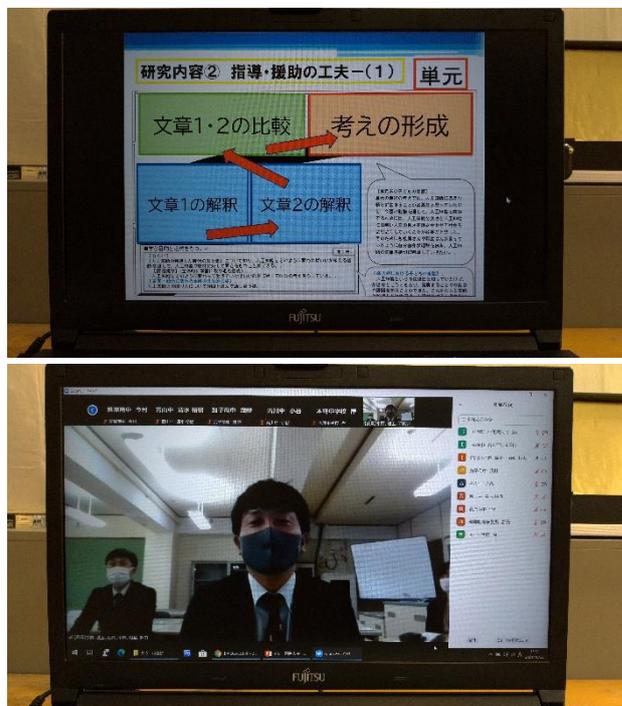
- ・オンラインでも十分実施可能。オンラインでの打ち合わせを重ねる中で、距離を超え、親近感を感じながら進めることができた。今後、うまくオンラインを取り入れることで、へき地校を含む県内全ての国語科教員が「オール岐阜」という意識で更に深く研究を進めていけると考える。
- ・働き方改革等を踏まえ、県大会をスリムにするという意識は継続したい。
- ・授業が見たかったという意見を多くもらった。飛騨大会ではプレゼンに授業の一部を載せる方法をとったが、事前に授業を視聴してもらい、それに対する質問を出してもらおう。その質問に答えるプレゼンを作成し、大会本番に発表するという方法が考えられる。
- ・言語文化はすべての領域に関わるので、言語文化部会の研究を進めることにたいへん苦勞した。これまで「話す聞く」「書く」「読む」「言語文化」の4つに分かれて研究を進めてきたが、学習指導要領が新しくなったこともあり、そもそも領域という枠組みを見直すことも必要かもしれないと感じた。

今年度の振り返りと令和4年度への方向

垂井町立不破中学校 小宅陽久

1. はじめに

今年度実施された「岐阜県中学校国語科研究部会飛騨地区大会」は、初めてのリモート開催となりました。これまでの当たり前が通用しないなかで、どのように研究を進めていけばよいか苦心した一年でしたが、県の領域部長と飛騨地区の領域部長、授業者が、指導案や実践発表の検討を何度も実施し、飛騨地区の生徒のために、授業や発表をよりよいものにしていくことができました。「どうすればうまくいくのか」、「今、すべきことは何か」、「生徒に力を付けるためにはどのような手立てが有効か」ということについて、大会運営、研究に携わる全ての先生が、アイデアを出し合い、当日に向かっていくことができました。これは、今年度の中国研の大きな財産となりましたし、中国研のニューノーマルを全県に提案できたと思います。大会後にいただいた感想では、「県の構想を受け、飛騨地区が歩みを進められたことがよかった」、「これまでの取組が今回の大会につながっていることがよく分かりました」、「飛騨地区の国語科の皆様の心意気と、素晴らしい結集力を感じる発表でした」などのお言葉をいただきました。また、各領域では次のような成果が上がりました。



- 授業を構想するにあたり、「テーマの設定」が重要な要素となることを飛騨地区の先生方と共有し、話し合いのテーマについて工夫をすることができました。さらにテーマを設定する際は、議論の後まで見据え、十分にテーマを吟味する必要があることを学ぶことができました。（話す・聞く）
- 「寝屋子プログラム」という、学校独自の活動を題材に言語活動を設定し、「寝屋親さんに納得してもらい意見文を書く」と、相手・目的を明確にしたことで、生徒に書く必然を生み出すことができました。単元を通して、継続して相手・目的意識に立ち返りながら、言語活動に取り組めるよう単元を仕組んだことで、生徒の課題意識を継続させながら、生徒が身に付けた力を活用して言語活動に取り組むことができました。（書く）
- 研究内容2において、学習形態の工夫を集団活動や個人活動、精査解釈や内容理解など、学習内容のバリエーションと捉えることで、「考えの形成」に至る生徒の意識を連続させた単元構想を行うことができました。（読む）
- 授業者が、事前に着目させたい言葉を軸にして単元や単位時間の授業を構成することによって、生徒も単元の終末に向けて構造的に読解していこうとする力をつける一助となりました。（言語文化）

これまで中国研が創り上げてきた研究のつながりを大切にしながら、新しい研究、新しい時代に対応し

た授業実践の在り方を模索していきたいと思います。各領域の部長から、今年度の成果と課題、次年度への方向性を伺っております。飛騨大会を終えた今、成果と課題をまとめ、研究部として、次への一步を踏み出したいと思います。

2. 具体的な方途

- (1) 全体研究構想を受け、各部会で重点を決定し、実践を進めていく。
- (2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。※新単元構想表の活用

(1) 全体研究構想を受け、各部会で重点を決定し、実践を進めていく。

平成29年度の「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会（岐阜大会）」、令和3年度10月に行われた「岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨地区大会」を経て、各部会で成果と課題が明らかになってきています。新学習指導要領への全面移行（新しい評価）、新しい教科書となり、岐阜県内の中学校に勤務されている国語科の先生方は、「具体的にどう授業し、生徒に『生きてはたらく言語能力を身に付けさせるのか?』」「具体的に、『何を』『どのように』評価するのか?」ということを知りたいと思ってみえると思います。国立政策教育研究所から、令和元年6月に出された、「学習評価の在り方ハンドブック」に、概要や方法は書いているのですが、「でも、実際に国語の授業はどうすれば・・・?」というのが本音だと思います。そこで、県の領域部長、研究部員を中心として、部会の重点に向かって実践を進める1年にしたいと思っています。詳細については、領域部長の先生から「令和4年度の方向」をご説明いただきます。

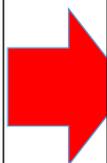
(2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。※新単元構想表の活用

前研究総括（現主務）の伊藤先生から以前にこのようなご提案がなされています。

令和元年11月14日・15日に、六本木ヒルズおよび、東京都港区立広陵中学校で行われた、「第48回全日本中学校国語教育研究協議会 東京大会」「第62回 全関東地区中学校国語教育研究協議会 東京大会」に参加させて頂きました。この中で、私がもっとも感銘を受けたのは、広島県立広島中学校の積山昌典教諭の実践です。積山先生は、令和3年度全面実施の学習指導要領の専門的作業等協力者を務められた方です。積山先生は、「走れ！強右衛門 描写を工夫して物語を書く」の教材にて、「主体的に学習に取り組む態度」を、次のような手順で評価を行われました。

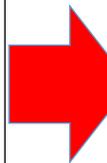
第2時

作品の中で、「アンダーラインを引いた記述」と「表現の意図を記したコメント」との対応を確認することを中心に評価。



第3時

「クラスメイトと協議しながら文章を遂行する中で、描写を工夫して作品をよりよくしている姿として捉え、生徒の活動を観察することで評価。



第4時

「クラスメイトと協議した内容を踏まえ、表現の効果などを確かめて鳥居強右衛門のエピソードの一場面の作品を整えた姿」として捉え、生徒の作品を分析することで評価。

私は、積山先生のご実践から、具体を学び、同時にこのような経緯で、「具体的にどうやって授業をするといいの?」「どうやって評価するといいの?」を明確にするべきだと考えました。中国研として指導事項に、指導計画と評価計画を組み込んだものを作成し、実践を示して行くことが大切だと思っています。

【中国研 令和4年度 希望調査 (Google Forms)】 (Web上の画面)



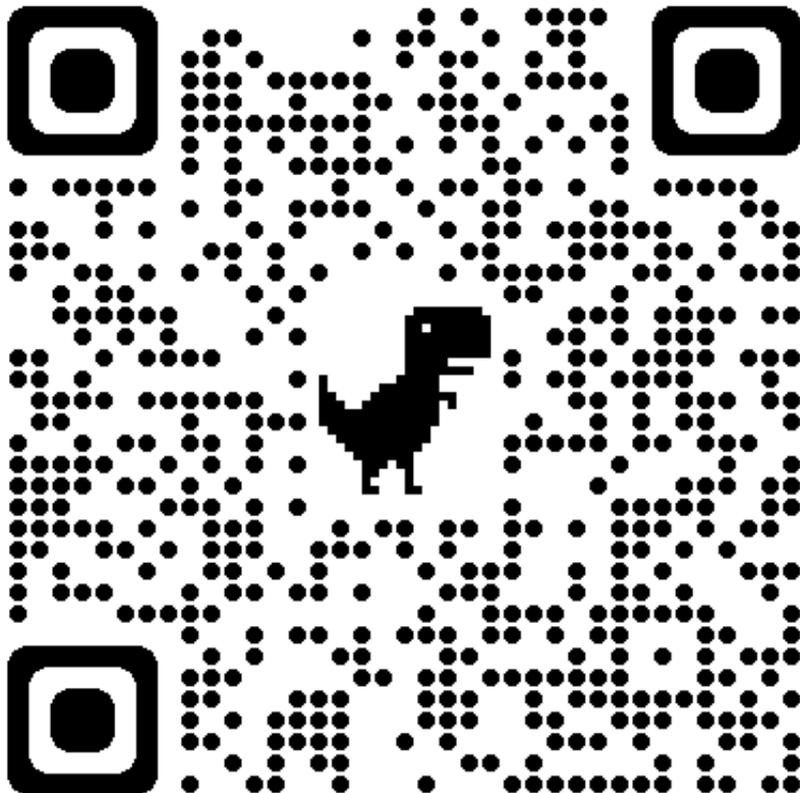
中国研 令和4年度所属部会 希望調査

fjh40221@gmail.com (共有なし) [アカウントを切り替える](#)

*必須

①現在 (令和3年度) 所属している部会を教えてください。*

- 話すこと・聞くこと部会
- 書くこと部会
- 読むこと部会



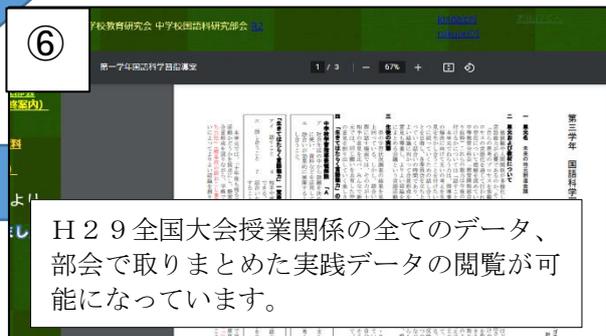
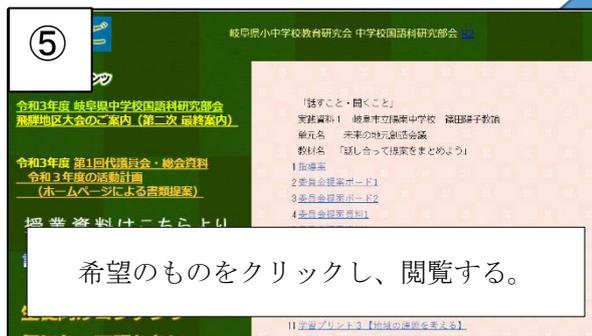
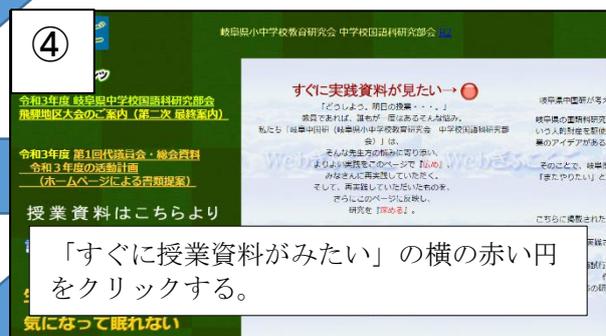
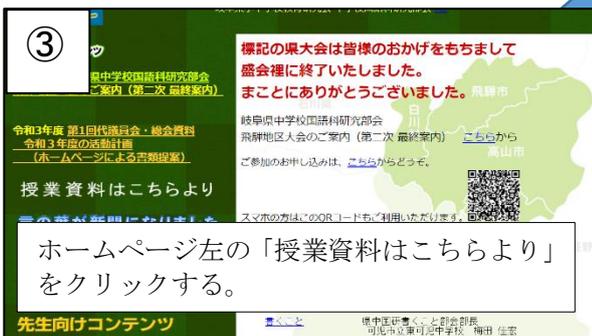
2月2日(水)の第2回
代議員会及び研究部総会
のときに、研究総括(小
宅)、各領域部長から、左
のQRコードを示しなが
らアナウンスを行い、3月
4日(金)までに回答をい
ただきます。

(2) 「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

次の美濃大会に向けて、研究部ができることは、「実践例を積み重ねながら指導法を工夫・改善し、深めていくこと」「再現性の高い実践を広めていくこと」ではないかと考えました。そのために、今年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、ホームページにおける情報提供を推進していきます。

【閲覧の手順】

※キーワードが「ぎふこくご」で出ない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。



令和4年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図 (案)

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること (学習指導要領解説 総則編より)

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は65%となっており、全国の平均正答率(64.6%)を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒は1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きだ」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、19.6%、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」と答えた生徒は、30.4%である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査でも、同じような傾向が出ており、近年の岐阜県全体としての生徒の実態は上記のように捉えることができると考えている。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」(＝楽しい)と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、**言語活動を通して**適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」(**個別最適な学習**)を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という**言語能力の高まりを実感をもつ**ことができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、**【願う生徒の意識と姿】**に記述した生徒になるだろう。
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) **実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた「生きてはたらく言語活動一覧表」新単元構想表(仮称)の作成**
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力(指導事項)』とは何か」を明確にした上で、指導事項と単元指導計画を組み合わせた指導計画を作成する。
 - ・教員誰もが見た時に、「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い指導計画を作成する。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) **生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**
 - ・「**教師対生徒**」の講義式の学習だけでなく、「**生徒対生徒相互**」「**教材との対話**」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。(対話の種類の研究)
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。**また、ICT(タブレット端末等)についても、国語の授業における効果的な活用方法について提案していきたい。**(対話の方法の研究)
 - ・作文の授業を例にとると、「○○という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、**2種類の作二つのモデル文**を提示し、「どちらの作文に説得力がある?そればなぜか?」と問いかけ、その理由を発見するような、「発見的な学習をするスタイル」を目指すために、どのような学習過程をとると良いのかを研究する。(課題解決の方途の研究)
- (2) **「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫(個別最適な学習の充実)**
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にした**授業づくりをする。など、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。**

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった・できるようになった(読み取りにおける考えの広がり、深まり等)」・「前よりよくなった(作文、スピーチ等)」という実感をもちつことができる場を工夫し、**自己の高まりを自覚できるようにした上で、**次時への意欲を喚起する。**そのことで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。**
- ・上記のような評価の場を、**単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかを研究し、提案する。**

単元構想表作成シート (ver. 3.0) の公表について

国語教育実践改革会議(広島支部)

指導事項に示された資質・能力を子供たちに確実に身に付けさせるために、先生方の負担を少なくするために、今回の改定では5つのポイントを意識しました。

ポイント1: 「学年」「領域」「言語活動例」「指導事項順」のボタンを押せば、指導事項が表示されます！(今回の改定では、どの順番に押してもOK!)

ポイント2: ボタンで表示させた後でも、「学年」「領域」「記号」が動かせる!たとえば、2年生の3学期に、「〇〇の指導事項だけ3年生でやってみよう」、「領域をまたいだ指導をしてみよう」といったことにも対応!

ポイント3: 今回の改定では、カテゴリー名も併せて表示。

ポイント4: [知識及び技能] との関連はリストで選択して表示!

2018/12/11 8:27

(第1学年) 単元名: 「空中ブランコ乗りのキキ」
指導者: 虎ノ門中学校 教諭 川内 太郎

中学校国語科
単元構想表 (ver.3.2)

学年 → 1 2 3

言語活動例 → ア イ ウ 他

領域 → A B C

指導事項順

All Clear

言語活動例		学年	領域	記号	言語活動	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
指導事項					言語活動	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
1年	C領域	イ	導入(学習への見通し)	をキキやロロの立場で物語の空白を埋める挿話	小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。				(指)既習教材である「オオカミのともだち」の学習を想起させ、行動や会話から登場人物の心情を捉えることについて確認する。	①
1年	C領域	イ	構造と内容の把握							
1年	C領域	イ	文章の中心部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。							
1年	C領域	イ	構造と内容の把握							
1年	C領域	ウ	構図の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。							
1年	C領域	ウ	精査・解釈							
1年	C領域	ウ	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。							
1年	C領域	ウ	精査・解釈							
1年	C領域	エ	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。							
1年	C領域	エ	考への形成							
1年	C領域	エ	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かめるものにする。							
まとめ(学習の振り返り)										
関連する[知識及び技能]										
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項					1年	(1)	ウ	対象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の詩的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	・キキやロロの心情の変化を描写を基に捉えることを通して、心情を表す語句の量を増している。(記述の確認)	(評)教科書への書き込み内容を中心に評価する。
(2)情報の扱い方に関する事項					1年	(1)	オ	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使うこと。	・空中ブランコを行うキキの描写を通して、比喩表現について理解している。(発言の確認)	(評)キキやロロの挿話を作成する活動の中での発言を確認することで評価する。
(3)我が国の言語文化に関する事項					1年	(1)	オ		・挿話を制作することを通して、登場人物のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方・考え方を広げようとしている。(活動の観察)	(評)単元全体を通して、学習活動を観察して評価する。
#びに向かう力、人間性等に関する評価(主体的に学習に取り組む態度)										

色がついていないセルには、何を入力してもらっても構いません。
あなただけの単元を描いてください!

ポイント5: 最初からやり直す時には、「All Clear」!

指導事項から授業を作ることで、子供たちが輝く国語教室を実現させましょう!



※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に對しての留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫

一 飛騨大会における話すこと聞くこと部会の成果と課題

○ 授業を構想するにあたり、「テーマの設定」が重要な要素となることを飛騨地区の先生方と共有し、話し合いのテーマについて工夫をすることができました。さらにテーマを設定する際は、討論の後まで見据え、十分にテーマを吟味する必要があることを学ぶことができました。

○ 新教科書の単元の取り扱いについて、多くの先生と議論を重ねたことで、飛騨地区内の学校間で情報を共有し、どの学校でも同様の単元展開を行うことができました。

● 部会として、研究部員の先生方にも協力していただき、指導案やプレゼンの検討ができるような体制が作れるとよかったと考えています。今回は飛騨地区の意向もあり、研究部員の先生方のご意見をいただく場がありませんでした。ここまでの四年間で部会として活動してきたので、部会全体として県大会への動きを作っていくるとよかったです。

二 話すこと聞くこと部会の今後の研究の方向性について

・ 今年度まで重点的に行ってきた「テーマ設定の工夫」については、今後も大切にしていきたいと考えています。話すこと聞くこと領域に関わらず、表現をする上では、「相手意識」や「目的意識」は欠かすことができません。「なぜ」「何のために」、そして「誰に対して」話すのかといったことを明確にした学習活動を設定することによって、生徒は主体的に取り組み、効果的に力を付けていくと考えています。

・ タブレット端末が導入され、一人一台端末を手元を持っています。これまでビデオカメラやICレコーダーで行っていた音声の録音や動画の撮影を一人一人が行うことができつつあります。そのような機器の効果的な活用方法や、評価への生かし方についても考えていきたいです。

一 飛騨大会における書くこと部会の成果と課題

○ 「寝屋子プログラム」という、学校独自の活動を題材に言語活動を設定し、「寝屋子親さんに納得してもらおう意見文を書く」と、相手・目的を明確にしたことで、生徒に書く必然を生み出すことができました。単元を通して、継続して相手・目的意識に立ち返りながら、言語活動に取り組めるよう単元を仕組んだことで、生徒の課題意識を継続させながら、生徒が身に付けた力を活用して言語活動に取り組むことができました。

○ 二つのモデル文を提示し、どちらが自分の主張にふさわしいかを吟味させる場面で、対話的な学びを生み出す交流活動を位置付けたことで、生徒が自分の考えを広げ深めることができました。仲間の考えを受け、主張と根拠の整合性を吟味しながら、根拠にする情報を選択したことで、一層相手を納得させる文章にすることができました。

○ 全国大会で得た成果を、地域の実態に合わせて再構築し、より充実させた形で示すことができた、非常に価値ある実践になりました。

● 言葉による見方・考え方を一層働かせながら、言葉や表現の適切さを吟味するために、語彙指導をより充実させていく必要があります。単元の構成を一層工夫するとともに、言葉に着目させたり、言葉について考えさせたりする場を意図的に設定していくようにします。

二 書くこと部会の今後の研究の方向性について

・ 生徒に身に付けさせたい言語能力を明確にして、誰でも、どこでもできる汎用性の高い題材設定、および言語活動を工夫していきたいです。

・ ICTを活用した学習活動を工夫します。情報収集だけでなく、構成の検討、記述、推敲等、指導事項に応じた実践を積み上げたいです。

一 飛騨大会における読むこと部会の成果と課題

○研究内容2において、学習形態の工夫を集団活動や個人活動、精査解 釈や内容理解など、学習内容のバリエーションと捉えることで、「考え の形成」に至る生徒の意識を連続させた単元構想を行うことができた。

●二者択一でなく、より多面的・多角的な見方考え方の形成やそれにか かる評価の在り方について、明らかにしていく必要がある。

読むこと部会では、「考えの形成」を行うための単元構想、授業展 開について研究を重ねてきました。自分の考えを形成する上では、 文章の内容を正確に理解すること（内容理解）、構成や展開、表現の 工夫や筆者の見方、考え方について、適切に解釈すること（精査解 釈）が重要であることが明らかになりました。

しかし、実際に考えを形成する際には、「賛成」「反対」や「肯定」「否定」などの二者択一の立場になってしまったり、自分の知識・ 経験を根拠とした結果、文章の内容とかけ離れてしまったりする、 展開の課題がありました。さらに、形成した考えが広がりたり深ま ったりしたことを、生徒が明確に自覚したり、どのような力が身に 付いたかを理解したりすることが曖昧になってしまおうという評価の 課題がありました。

それらの課題を受けて、考えの形成を受けて、生徒がどのように 自分の考え方が広がりたり深まったりしたかを自覚させるための評 価の在り方や、その力を蓄積し、他の場面で活用するための螺旋的 な単元構想の在り方について、今後は研究を積み重ねていきたいと 思います。

一 飛騨大会における言語文化部会の成果と課題

○単元を貫く言語活動として「言葉の意図」について意識をもたせる ことで、教材文を主体的に読み、言葉が使われた意図に着目して読 むもうとする姿の高まりにつながることができた。

○授業者が、事前に着目させたい言葉を軸にして単元や一単位時間の 授業を構成することによって、生徒も単元の終末に向けて構造的に 読解していかうとする力をつける一助となった。

●単元の終末における言語活動を明確化したことで、構造的・主体的 に単元に取り組む姿にはつながったものの、単元で身につけた力を 社会生活とどう結び付けていくかをより具体化していくことが重要 である。

二 言語文化部会の今後の研究の方向性について

今まで取り組んできた古典の学習にとどまらず、飛騨大会に向けて、 説明的文章や文学的文章においても、「言葉への自覚を高める」ために 指導過程を工夫してきたことについて、成果を出すことができたこと考 えている。

今後は、飛騨大会での成果を礎とし、三領域との関連をより明確にし ていく。また、単元の学習を通して身につけた力を、他の教科や社会生 活でどのように生かしていくことができるかということについて、さら に研究を進めていきたい。また、これまでと同様に、古典の学習につい ての研究も同時に進め、古から使われてきた言葉に対する親しみもより 一層深めていくことができるよう、単元の構造や一単位時間の授業のあ り方についての実践をすすめていきたい。

A 話すこと・聞くこと部会 令和3年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

1 今年度の研究方向

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和3年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・指導事項を効果的に身に付けさせるとともに、生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うようなテーマの設定を工夫することで、生徒が主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進
 - ・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
 - ・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。(黒板写真・授業資料の共有)
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。さらに、そのテーマが、指導事項を指導するために適切なテーマであるかどうかを検討する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
 - ・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫
 - ・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

(3) 評価の工夫

生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。
(ビデオカメラやICレコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用)
- ②生徒の習熟度を効果的に評価する「場」と「方法」を工夫する。

A 話すこと・聞くこと部会 令和4年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

1 今年度の研究方向

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和4年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・生徒が「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」という思いを抱き、指導事項を効果的に身に付けさせることのできるテーマの設定を工夫することで、生徒は主体的に学習に取り組みながら、効果的に力を身に付けていくであろう。
- ・言語活動を通して生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、焦点的な指導が可能となり、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①実践の再現性を高めるための、指導事項と指導計画を組み合わせた「生きてはたらく言語活動一覧表」の作成
 - ・指導計画の段階で、指導事項をより具体化して、「この単元でこそ身に付けさせるべき力」を明確にする。
 - ・生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという生徒の具体的な姿を明確にする。
- ②生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」と思うような魅力や必然のあるテーマ設定を考える。
 - ・言語活動が必然のあるものであり、今後社会生活でどのように生きるかを生徒と教師とで共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「目指すべき姿」が生徒にとって明確になるような効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
 - ・タブレット端末等を用いた自己評価や、仲間との交流による相互評価の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手だての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・生徒の実態に応じて「苦手を克服するための手立て」はもちろん、「得意を伸ばす手立て」も工夫する。

(3) 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ①学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。
(一人一台端末の効果的な活用)
- ②生徒が、単位時間や単元の最初の頃の自分と比較し、自己の高まりを感じられるような評価の「場」と「方法」を工夫する。

B 「書くこと部会」 令和3年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎「もっと知りたい」「書きたい」と魅力や必然性を感じ、見通しをもって主体的に学習に向かう姿
- ◎論理の展開や表現の仕方、効果について考えたり、吟味したりして、自分の考えを書く姿
- ◎対話や議論を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ、自分の表現に生かしていく姿
- ◎「こうすると～な文章が書ける」「確かによくなった」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもつことができる姿

令和3年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて， 考えが伝わる文章を書く能力の育成 ～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・「この題材・この時間でしか付けることができない力」とは何かを明らかにした上で、指導事項を明確にし、魅力や必然性のある題材を設定すれば、主体的に学習に向かう姿を育成することができる。
- ・例文の比較などから得た自分の考えをもとに、仲間との対話や議論を通して、論理の展開、表現の仕方や効果について考えたり吟味したりする言語活動を意図的に仕組み、個に応じた指導・援助を行えば、自分の見方や考え方を広げ、伝えたい内容を工夫して書く能力を育成することができる。

(1) 指導計画の工夫

- ①「言語活動一覧表」及び「言語活動具体化一覧表」をもとにした言語能力の明確化
 - ・指導計画において、育成したい資質・能力を明確にし、適した言語活動を設定する。
 - ・単元の出口における、目標を達成できたといえる生徒の姿を教師が具体的に描く。
- ②生徒が魅力や書く必然性を感じる題材の工夫
 - ・学校や地域の特性、生徒の実態に応じて、設定する題材を工夫する。
 - ・「書きたい」「書いてみたい」と思える題材の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
 - ・ペアや小集団、及び、小集団の編成等を工夫する。
 - ・対話や議論の目的や視点を明確にするとともに、展開や表現の仕方を確認・吟味する学習過程を位置付ける。
- ②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、個に応じた指導・援助の充実
 - ・予想される困り感を解消するための、モデル提示や指導・援助の方法を考える。
 - ・得意な生徒が、より多面的、客観的に思考できるような指導・援助の方法を考える。

(3) 評価の工夫

- ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方
 - ・生徒が自分の習熟の度合いを効果的に捉え、評価できる場を設定する。
 - ・教師にとっても生徒にとっても明確で変容を捉えやすい評価の方法を工夫する。

B 「書くこと部会」 令和4年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和4年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感を持ち、実生活に生かそうとする姿

令和4年度 「書くこと」部会 研究主題

相手、目的や意図、場面や状況に応じて、 考えが伝わる文章を書く能力の育成 ～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

- ①指導事項と指導計画とを組み合わせた「生きてはたらく言語能力」の一層の明確化と、「中国研ホームページ」を活用した情報共有による授業の汎用化の推進
 - ・育成したい資質・能力を明確にして、評価基準を達成した生徒の姿を具体的に思い描く。
 - ・実践した資料等を、ホームページで県全域に広げ、どの学校でも実践を活用しやすくする。
- ②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫
 - ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動を工夫する。
 - ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える題材や言語活動を工夫する。

(2) 指導・援助の工夫

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
 - ・ICTを効果的に活用したり、ペアや小集団等の学習形態やその編成等を工夫したりする。
 - ・単元や単位時間で働かせたい見方・考え方を明らかにして、論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習過程を位置付ける。
- ②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、個に応じた指導・援助の充実
 - ・予想される生徒の困り感を解消するための、モデル提示や指導・援助の方法を考える。
 - ・自力で評価基準に達すると想定される生徒が、よりよい表現を工夫できるような指導・援助の方法を考える。

(3) 評価の工夫

- ①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方
 - ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場を設定する。
 - ・教師にとっても生徒にとっても明確に変容を捉えやすい評価の方法を工夫する。

C 読むこと部会 令和3年度の研究の方向

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和3年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを活用できる生徒
- ◎言語活動を通して形成した自分の考えを、根拠をもとに適切に伝え合うことができる生徒

【令和4年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを伝え合う生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程に重点をおいた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、単元及び単位時間において意図的かつ効果的な言語活動を位置付けたり、付けたい力を明確にしたりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や言語活動のなかで読み取ったことをもとに形成した自分の考えを、根拠をもって適切に伝え合い、豊かに表現する力を育むことができる。

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黒板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積

②学ぶ魅力・必然性のある教材開発

- ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切に教材開発・題材開発の工夫 ※「考えの形成、共有」の学習過程を重視した指導計画を作成する

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
- ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）

②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造

(3) 評価の工夫

- ・単位時間、単元の終末に「確かに読み取れた」「考えが深まった」という実感をもつことができる場の設定

C 読むこと部会 令和4年度の研究の方向（案）

読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和4年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、**目的をもって主体的に読むことの学習に取り組む**ことができる生徒
- ◎**根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築**ができる生徒
- ◎言語活動を通して、**読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用**できる生徒

【令和4年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、**高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫**～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、**根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。**

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・**生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成**

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的にする場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

言語文化部会 令和3年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚を豊かにする言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材分析を行い、社会生活とのつながりを意識させる言語活動を設定すれば、古典に親しむ生徒を育成することができる。

《研究内容》

① 「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して獲得させたい・気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

② 「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の定着）

- ・ 主体的に言葉を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語句の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

『「言葉への自覚」を高める』の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

言語文化部会 令和4年度の研究方向 (案)

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 語彙の量を増やし、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。
- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常生活や社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。

《研究内容》

① 「言葉への自覚」を高める指導計画の工夫

(1) 語彙の量を増やし、語句についての理解を深めるための指導計画の工夫

- ・ 辞書に書かれたその言葉の意味を理解するだけにとどまらないよう、単位時間を通して自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を明確にした指導計画を作成する。

② 「言葉への自覚」を高める指導援助の工夫

(1) 言葉そのものを学ぶ指導・援助の工夫（辞書の活用・語彙の語句の意味の定着）

- ・ 主体的に言葉の知識を獲得する姿を目指し、言葉と言葉とのつながりやその役割、意図に気付かせる指導・援助を明確にする。

(2) 3領域との関連の中で、語句語彙の量を増したり、語句の理解を深めたりする指導の工夫

- ・ 言葉の知識をそれぞれの領域と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域において言葉の知識を獲得できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

(1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる場の位置付け

- ・ 言葉に対する正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、自覚的に用いていくことができる活動の場を設定する。

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

令和3年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

<趣 旨> 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

<観 点> ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

<主 催> 岐阜県中学校国語科研究部会

<募集領域> 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

<募集部門> ○論文部門
○ダイジェスト部門（新しい部門です）

<応募資格> 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

<形 式> ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
・論文部門のページ数は自由。
・ダイジェスト部門は**指導案のみ**の送付で大丈夫です。

※中国研ホームページでは、「ダイジェスト部門」には、A4 1枚で実践のまとめを添付していただくようにアナウンスさせて頂きましたが、より多くの方の実践をという思いから、指導案のみの送付も可とさせて頂きました。

<応募先> 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺1367

川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一

アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したのと同じものでも結構です。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

<応募締切> 令和4年1月17日（月）必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！

令和3年度 代議員の皆様へ

令和3年度県中国研 総務部長
郡上市立白鳥中学校 上村 光一

令和4年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度も残すところあとわずかとなりました。代議員の先生方には、大変お世話になっております。本年度もコロナ禍のため、活動が制限された中ではありますが、飛騨大会をはじめ、多くの成果もあった一年となりました。本当にありがとうございました。

さて、つきましては、来年度の代議員の確認、及び引き継ぎ方法についてご連絡いたしたいと思えます。本来ならば、2月の第2回代議員会において直接ご説明すべきところですが、対面での会の開催ができないため、次のような進め方としたいと思えます。

【「アンケートフォーム」を用いた来年度の代議員の確認】

(手順)

①Google フォームにリンクしている、左下のQRコードをスマートフォンで読み込む。

(パソコンならば右下のURLでリンク先へ)



<https://forms.gle/fxSTHbghJQ4ZDQKJ8>

②アンケートフォームにご回答いただく。

*フォームにはメールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご記入ください。(回答後、そのメールアドレスに回答のコピーが届きます。コピーが届いていれば正しく操作できたこととなります。)

③来年度の代議員さんに次のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。

*なお、メールアドレスが送付できないご事情があれば、Faxでも対応いたしますので、その際はFax番号を送付していただけると幸いです。(

[送付先メールアドレス] ko.uemura@gujo.ed.jp

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立白鳥中学校 上村 光一 (うえむら こういち)

TEL 0575-82-3155 fax 0575-83-0048

お手数ですが、よろしくお願ひいたします。

FAX 送信票

郡上市立 白鳥中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-83-0048

令和4年度 中学校国語科研究部会代議員

報告用紙

令和4年度 代議員

_____ 中学校 _____

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

_____ 中学校 _____

中国研役員会・代議員会資料

情報部会

1 令和3年度の活動について

- (1) 代議員会・研究部会の資料の公開 (PDF) ----- (代議員会資料はホームページに掲載)
- (2) 研究部・編集部等の活動成果の掲載協力 ----- (年度末に集約の予定)
- (3) 飛騨大会広報活動 (HP等)・研究集約の掲載 ----- (部分実施。さらに年度末に集約)
- (4) NHK 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会運営 ----- (H3.7.26 に実施)
- (5) 中国研 HP のサーバーの契約の変更 ----- (Web サービス業者選定交渉中)

ぎふくご

先生向けコンテンツ

令和3年度 岐阜県中学校国語科研究部会
飛騨地区大会のご案内 (第二次 最終案内)

令和3年度 第1回代議員会・総会資料
令和3年度の活動計画
(ホームページによる書類提案)

授業資料はこちらより
言の葉が新聞になりました
「ぎふくご賞」
生徒向けコンテンツ
気になって眠れない

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

標記の県大会は皆様のおかげをもちまして
盛会裡に終了いたしました。
まことにありがとうございました。飛騨市

岐阜県中学校国語科研究部会
飛騨地区大会のご案内 (第二次 最終案内) [こちらから](#)
ご参加のお申し込みは、[こちらから](#)どうぞ。



スマホの方はこのQRコードもご利用いただけます。

<県中国研 研究構想>

全体研究構想	県中国研研究総括 垂井町立不破中学校 小宅陽久
話すこと・聞くこと	県中国研話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎
書くこと	県中国研書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏
読むこと	県中国研読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大
言語文化	県中国研言語文化部会部長 各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

愛知県

令和3年度 岐阜県中国研 第1回代議員会総会 話すこと・聞くこと部会資料

A 話すこと・聞くこと部会 令和3年度の研究方向
話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

1 今年度の研究方向

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、さらに別の場で生かそうとする姿

令和3年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成
～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

B 「書くこと部会」 令和3年度の研究方向
書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和3年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎「もっと知りたい」「書きたい」と魅力や必然性を感じる
- ◎論理の展開や表現の仕方、効果について考えたり、
- ◎対話や議論を通じて、自分のものの見方や考え方を
- ◎「こうすると～な文章が書ける」「誰かによくなった」ことができる姿

令和3年度 「書くこと」部会 研究主題

相手、目的や意図、場面や状況、
考えが伝わる文章を主体的に読み深め、自分の考えを
～論理の展開や表現の効果を考え、工夫して書く

研究仮説

・「この題材・この時間でしか付けることができない」
明確にし、魅力や必然性のある題材を設定すれば、主

C 読むこと部会 令和3年度の研究方向
読むこと部会部長 岐阜市立岐阜中央中学校 北原章大

【令和3年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に励む
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを
- ◎言語活動を通して形成した自分の考えを、根拠をもとに適切

【令和3年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを
～自分の考えを形成する学習過程に重点を置いて「読

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、単元及び単位時

2021.04.27

言語文化部会 令和3年度の研究方向
言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・国語の知識や技能を社会生活において様々な場面で主体的に活用する生徒
- ・古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につながる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

※(4) NHK 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会について

日 時 令和3年7月26日(月) 9時より

場 所 ZOOMによるオンライン開催

審査員 中国研会長・主務・情報部・NHK放送局アナウンス部（浅野達朗アナウンサー）

参加者 アナウンス部門 1名（多治見西高等学校附属中）

朗読部門 16名（多治見西高等学校附属中・厚見中・本荘中）

入賞者 アナウンス部門 優秀賞 廣田 倖帆 多治見西高等学校附属中学校

朗読部門 最優秀賞 西田 青 岐阜市立本荘中学校

朗読部門 優秀賞 熊谷 亜美 岐阜市立本荘中学校

朗読部門 優秀賞 関谷 華蓮 岐阜市立本荘中学校

朗読部門 優秀賞 今西 藍子 岐阜市立本荘中学校

朗読部門 優秀賞 平野 葵惟 岐阜市立厚見学園厚見中学校

朗読部門 奨励賞 野尻 祐衣 多治見西高等学校附属中学校

朗読部門 奨励賞 安田 蒼 岐阜市立本荘中学校

事後 朗読部門最優秀賞受賞者1名を全国大会に推薦（予選出場）

全国大会参加規程（抜粋）

(1) アナウンス部門

【課題】 中学校生活の中から素材を求めた内容とする。

ア. 原稿は生徒の自作とし、校内ニュースやニュース解説など、
自校の校内放送用のもの。

イ. アナウンス本文は、20字×20行以内におさめる。

(2) 朗読部門

【課題】 次の指定作品のうち、1編をえらび、自分の表現したい部分を決め朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。翻訳作品は、必ず指定された訳者による本を使用すること。

《指定作品》

①『蜘蛛の糸・杜子春』芥川龍之介 著（新潮文庫）

②『おれのおばさん』佐川 光晴 著（集英社文庫）

③『くちぶえ番長』重松 清 著（新潮文庫）

④『佐藤さとり童話集』佐藤さとり 著（ハルキ文庫）

⑤『晴れたらいいね』藤岡 陽子 著（光文社文庫）

⑥『ドリトル先生航海記』ヒュー・ロフティング 著／福岡 伸一 訳（新潮文庫）

(3) ラジオ番組部門

【課題】 中学校生活から生まれたもので、テーマは自由とする。

(4) テレビ番組部門

【課題】 中学校生活から生まれたもので、テーマは自由とする。

5分以上8分以内にまとめる。

※(5) 中国研サーバーの契約の更改について

ホームページ取り扱い業者（契約）の変更

- ・ これまでは、契約するレンタルサーバにより運用していた。（情報の更新は随時、情報部長が行った。）
- ・ 今後は、外部委託による運用とし、情報の更新・追加などは情報部長が代表して行う。

※ 現在取得している URL 「kokugo.chu.jp」（chu.jp ドメイン）は、今後も引き続き使用する。

※ 全国の教育機関・研究団体には、「Web ぎふこくご」にリンクを張るホームページもある。

※ 新HPは、4年度7月までのできるだけ早い時期に運用を開始する。

現在、業者選定を進めている。

3 4年度の活動の方向

- (1) 代議員会・研究部会の資料の公開(PDF)
- (2) 研究部・編集部等の活動成果の掲載協力
- (3) NHK 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会運営
- (4) 中国研レンタルサーバーの契約の変更
- (5) パソコン研修 Excel 講座（社会情勢を見極めて対面にて実施したい）

「ぎふこくご」No72 もくじ

◆新しい令和の時代の国語科教育を考える……………	会長 大垣市立東中学校 石橋 佳之	3
◆国語を学ぶ楽しさを味わうことのできる授業を目指して	……………可茂教育事務所 教育支援課 今井 則雄	4
◆県中学校国語科研究部会の動き	ウイズコロナ時代に飛騨地区の先生方によって生み出されたニューノーマル	
	……………主務者 岐阜市立本荘中学校 伊藤 雄樹	6
◆全国大会の成果を広げ、深めた飛騨大会……………	研究総括 垂井町立不破中学校 小宅 陽久	8
・全体研究構想図……………		10
・話すこと聞くこと部会 令和3年度の研究の方向……………	恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎	11
・書くこと部会 令和3年度の研究の方向……………	可児市立東可児中学校 梅田 佳宏	12
・読むこと部会 令和3年度の研究の方向……………	岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大	13
・言語文化部会 令和3年度の研究の方向……………	各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ	14
◆飛騨大会の成果と課題およびオンライン大会を終えて感じていること	……………飛騨大会実行委員長 高山市立北稜中学校 中西 史子	15
・「飛騨大会:話すこと聞くこと」指導案……………	高山市立国府中学校 新井 良太	16
・「飛騨大会:書くこと」指導案……………	高山市立松倉中学校 佐藤 智貴	20
・「飛騨大会:読むこと」指導案……………	高山市立日枝中学校 川原 秀登	24
・「飛騨大会:言語文化1」指導案……………	高山市立東山中学校 紺谷 篤	28
・「飛騨大会:言語文化2」指導案……………	白川村立白川郷学園 小林 雅士	33
◆実践記録ぎふこくご賞受賞者一覧……………		38
◆令和3年度 県中国研役員・研究部員組織一覧……………		40
◆中学校国語科研究部会会則……………		41